

第3回 運営委員会記録

| | |
|--------------------------|--|
| 日時 | 2010年11月1日(木) 11:15~18:35 |
| 場所 | NPO 法人 CAP センター・JAPAN 事務所 |
| 出席者 (2010年度運営委員会委員5名) | 横山恵子、島村優子(理事)、高松哲人(定款・細則を考える委員会) 重松和枝(トレーニング委員会)、作野今日子(事務局) |

上半期が終わり、次年度にむけての準備が始まる時期なんだなあ・・・

定款の変更には NPO 法人の組織の方向性が関連しているのかあ



わかりやすく読みたくなる資料作りは、社会へのアピールからも大切だよ!

第3回運営委員会の
のーコマ

(運営委員会委員から一言) 毎回、運営委員会委員からの一言をご紹介します。

今回は、2010年度定款・細則を考える委員会の高松哲人さんからの一言です。

“昨年から定款・細則の整備を進めています。単に文言の修正だけでなく ICAP との RTC 契約や合意文書(MOU)など新しい仕組みが整備され、トレーニング体制も新しくなる中、NPO 法人の使命や会員の位置づけなど改めて定款の趣旨を読み解く作業を進めてきました。ようやくそれらの整合性や意味するところを整理できたような気がします。

この作業の中で定款や RTC 契約が、高い志を持って子どもの人権の確保と地域への貢献を目指していること、そしてその志を実践し続けるための仕組みを持っていることを実感しました。

ようやく具体的な定款の変更案や細則の案を出すところまで進みましたが、振り返ってみるととても有意義なそして楽しい作業だった気がします。この案を基にいろいろな意見を交わす中でどのような定款・細則が整備され続けていくのかますます楽しみです。”

主な項目

1. 報告事項

事業部門報告(第1事業~第7事業)

管理部門報告

- ・ 会員状況
- ・ MOU を提出されていないグループ、ネットワーク外の CAP を実施している団体への対応および状況報告
- ・ ICAP 来日報告

- ・ トレーナーの選考と評価に関する委員会
- ・ J-CAPTA との会合報告

その他 トレーニング委員会経過報告

2. 理事会、定款・細則を考える委員会等への提案あるいは理事会での決議事項に基づく実際の作業に関する話し合いに関する話し合い

管理部門

- ・ プレトレーナー選任の道筋について
- ・ 2011 年度総会について
- ・ NPO 法人としての CCJ のミッションや活動指針を社会へ発信するアピール文の作成について

RTC

- ・ 中学生暴力防止プログラム講座開催に関する J-CAPTA よりの提案について
- ・ フィリップモリス助成金(児童養護施設プログラム)
- ・ 「Strategies for Free Children」(ICAP 著作)日本語訳作成についての今後の方針について
- ・ 定款・細則を考える委員会

| 話し合いの概要 | |
|---------|--|
| 1. 報告事項 | <p>1. 報告事項</p> <p>事業部門報告（事務局から報告）</p> <p>* 2010年度組織運営体制（別紙）</p> <p>* 上半期の主な事業一覧（別紙）</p> <p>第1事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CAP スペシャリスト養成講座（実践編） 刈谷会場で実施。22人が修了。11月5日～7日には西宮で実施予定。（16人が受講予定） ・トークタイム研修（資格更新のための必須研修）/児童養護施設プログラム研修 いずれも埼玉で実施。 ・トークタイム特別研修 ICAP トレーナーを講師として実施。 ・TA / 出前講座 ・公開講座「互いにここちよいと思える人間関係をめざして」（境界線研修・一般対象） 講師：徳永桂子さん・・・今までにない多様な参加者。切り口を変えた形で社会へのアプローチとして実施した。 <p>第2事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもへの暴力防止のための基礎講座 西宮会場・・・受講者が少なかった/関西でどう盛り上げていくのが課題。 熊本会場・・・独立行政法人福祉医療機構（WAM）の助成金で実施された。グループが主催となり、講座運営・企画をCCJが行った。協働という意味で今後の取り組みにおいても参考になると考えている。 <p>第3事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メール受信件数（4月1日～10月26日まで）3134件 ・ホームページリニューアル 随時 ・メールマガジン CAPセンター・JAPAN通信（対象・2009年度正会員109に配信） 定時/号外（タイムリーかつスピーディな情報発信を目的として発信） ・メールマガジン RTC通信 月初め 準備号3号と本号4回を発信 （対象・上半期/MOUを交わしていないグループを含む96グループに配信、 下半期/MOUを交わした88グループに配信） メルマガ CAPセンター・JAPAN通信で、配信対象についてはお知らせ済。 ・事務局ブログ 再開 多様な人への発信を目的としてアメブロを使用している。 現在は、養成講座など講座の様子が主たる内容。 ・GETS事業 CAP活動について様々な制度などが固まり、まとめることが必要 <p>第4事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正会員宛に『メルマガ センター通信』を補完するものを送付。 ・The すべしやりすと第28号の発行 ・子どものエンパワメント・サポートブックの発行 ・・・おとなワークショップの参加者への復習用の読み物として麒麟福祉財団の助成をうけて発行。（対象・MOUを交わしたグループへ200円で頒布） <p>第5事業 2009年度ワークショップ実践数集計（J-CAPTAとのデータ交換済）</p> <p>第6事業 連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Jaspcanへの展示参加準備 ・RTC協力会合（9月28日） ・子ども虐待ネグレクト防止ネットワークとの協働（司法面接におけるアクター担当） ・西宮市市民交流センターとの協働（公開講座・「互いにここちよいと思える人間 |

| | |
|--|---|
| | <p>関係をめざして」)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財団法人キリン福祉財団 専門職研修 3 箇所、子どもへのエンパワメントサポートブック発行。 ・中央共同募金 缶バッジ、シール CAP の広報グッズとして作成 ・J-CAPTA 主催事業「子どものこえに耳を傾けること/子どもへの虐待防止フォーラム」にポスターセッション参加。 <p>管理部門報告（事務局から報告）</p> <p><u>会員状況</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・正会員 92 グループ（2010 年度会員資格失効 8 グループ / 2010 年度会費未入金 8 グループ）、活動会員 420 人、賛助会員 29 人（口数はそれよりも多い） <p><u>寄付団体</u> 寄付者団体 7、個人 42。</p> <p><u>CAP スペシャリスト資格登録状況 / CAP スペシャリスト活動認定証は</u>、971 人に発行（MOU を交わし、所属申請を提出し、申請料を支払った 62 グループの CAP スペシャリストに発行）。資格取得証明については、21 名に発行（CAP グループに所属していない CAP スペシャリストで 2009 年度活動会員になり、覚書を提出した方に発行）。HP の トップページへのお知らせを行なう準備中。</p> <p><u>2010 年度合意文書（MOU）提出状況</u> 88 グループが提出。（未提出 22 グループ）</p> <p><u>年間のキャッシュフロー予定・中間決算</u> 下半期にむけて厳しい状況。</p> <p><u>MOU を提出されていないグループ、ネットワーク外の CAP を実施している団体への対応および状況報告</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・文書でのプログラム提供に関する確認作業、プログラム提供を行っている場合は MOU を交わすよう要請を行っている。 <ul style="list-style-type: none"> ・・・正会員とは、NPO 法人の趣旨・活動に賛同し、CAP を応援してくれる人、団体であり、正会員であることで CAP プログラム提供活動が可能になるわけではない。CAP プログラム提供には、MOU を交わすことが必要であることを伝え続ける。MOU を交わして CAP プログラム提供を行うグループを CAP グループとして紹介していく。 < 運営委員会での決定 > HP の正会員グループ MAP を CAP プログラムを提供する CAP グループ（MOU を交わしたグループ）の MAP へ変更することから、MOU を交わしていないグループにお知らせを行なう。（理事会に報告） <p><u>ICAP 来日報告</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレ TOST / トークタイム特別研修 単事業として赤字にはならなかった。 <ul style="list-style-type: none"> ・・・講師の二人は講座運営も含めてロールモデルとして素晴らしかった。クロージングサークルなど、見習うべきところも多かった。 <p><u>トレーナーの選考と評価に関する委員会</u></p> <p>（メンバーの確定）栗本敦子さん、川中大輔さん、理事長、事務局長 （会議）</p> <p>9 月 17 日方針 - 内容 - これまでの変遷の確認 / トレーナーをどう評価していくのかについて意見交換 職務（ベーシックトレーナーの評価、プレトレーナーの選考）の確認 前任者からの引継ぎ内容などの説明</p> <p>10 月 21 日（側垣理事長・欠席） - 内容 - プレトレーナーの選考方法、手順について協議、確認</p> |
|--|---|

| | |
|---|---|
| | <p>J-CAPTA との会合報告（9月28日・RTC 協力会合 / 北海道・札幌） 事務局長作野とトレーニング委員会重松が参加。議事録作成中。</p> <p>その他 トレーニング委員会</p> <p>資格更新までのロードマップを活動認定証所持者等に示すための話し合い経過の報告。（新たな点・必須研修以外にも参加をうながすためにポイント制をとることなど）第3回理事会に提案した後に MOU を交わしたグループに知らせる予定。</p> |
| <p>2. 理事会、定款・細則を考える委員会への提案あるいは理事会での決議事項に基づく実際の作業等に関する話し合い</p> | <p>管理部門 <u>プレトレーナーの選任までの道筋をどうするか</u> < 運営委員会から第3回理事会への提案 > 次年度への準備のために年内の決定は必須。そのための手続き方法を運営委員会から、理事会に提案する。</p> <p><u>2011 年度総会について</u> 第2回理事会で西宮以外での開催が決議されている。 < 運営委員会より第3回理事会で説明 > 理事会における決定事項を執行するため、事務局が2011年度定時総会について試算したところ、経費面で不安を感じていることを説明する。</p> <p><u>NPO 法人としての CCJ のミッションや活動指針を社会へ発信するアピール文の作成について</u> < 運営委員会から第3回理事会への報告 > （内容）CAP の存在を社会に発信し、社会変革をめざすためアピール文を作成する。 （総会において）CCJ のミッションや活動指針 / 会員のみなさんへ （事業のなかで）社会へのアピール / 外部に対して （発信）NPO 法人 CAP センター・JAPAN</p> <p>RTC <u>中学生暴力防止プログラム講座開催に関する J-CAPTA よりの提案について</u> CCJ / J-CAPTA 共催、J-CAPTA 主催、CCJ 主催あるいは開催しないことを含めての検討 < 運営委員会から第3回理事会への提案 > J-CAPTA 主催講座への参加、あるいは共同開催、CCJ の主催講座ともに行なわない。RTC として現在の中学生プログラムの情報を把握し、その上で今後について検討するため、中学生暴力防止プログラム講座に担当者が参加し情報収集を行なう。 （理由）9月に行なわれた RTC 間協力会合において J-CAPTA が中学生暴力防止プログラムの TOST を1年半～2年後に行なう予定であることが明らかになった。CCJ としては RTC として各プログラムのトレーナーを持つことが急務と考えるが、現在中学生プログラムの実施についてエリア内のグループに対してリサーチ中であり、その結果を持って合同 CRC において検討し反映させた上で、中学生暴力防止プログラムの TOST の実施をお願いし、CCJ のトレーナーを持つように計ると考える。そのため、TOST 開催までは中学生プログラム養成講座を CCJ では開催しない方針とすることを提案する。</p> <p><u>フィリップモリス助成金（児童養護施設プログラム）</u> < 運営委員会から J-CAPTA に提案 > J-CAPTA が RTC としての窓口としてエリア内の申請をとりまとめ、CCJ が「CAP として一括窓口」として交渉を行うことを J-CAPTA に提案する。 （理由）J-CAPTA から、助成金をそれぞれの団体別に出してもらおうようフィリップモリスに要望してほしいとの依頼があった。団体ごとの助成になることで減額になる可能性もあり、ここまで児童養護施設あるいは社会的養護における CAP プログラムの提供に果たしてきた役割の大きい助成金だけに、懸念材料が大きい。これまでは CCJ がグループからの申込を含め、窓口をしてきたが今回の提案</p> |

をうけ、J-CAPTA エリアについては J-CAPTA がエリアのグループの窓口となり集約を行い、CCJ が CAP としての一括の窓口としてこれまで通り交渉を行い助成を得ることが望ましいと考える。

児童養護施設プログラム報告会の共催についての J-CAPTA からの提案について(長野県での開催をあわせて提案されている)

< トレーニング委員会での決定を運営委員会において報告・確認 >

共催の場合、社会的養護への意識啓発のため出来る限りオープンにし、一般の方も含む公開での開催を希望。3 月くらいまでの開催とし参加する方向で検討。CCJ としてのこれまで取り組みと今後の取り組みの展望を発表する。

コミック版サクセスストーリー増刷についての J-CAPTA からの提案について

< 運営委員会での決定 >

何冊くらいの増刷を希望されるのかを聞き、注文は CCJ が行なう。

「Strategies for Free Children」(ICAP 著作)日本語訳作成についての今後の方針について

< 運営委員会から第 3 回理事会に報告 >

J-CAPTA との RTC 協力会合において、来年 5 月には出版し(昨年の秋の ICAP 来日以来のプラン)新たな情報を基に講座を開催したいという CCJ のスケジュール案と計画を提案。「共同との意向を持っている」という返信があったため、具体的なプラン、こちらからの提案についての返信を求めているところ。CCJ としては提案を行なったことから、プランを進めていけるように準備を行なう。

定款・細則を考える委員会

< 運営委員会から定款・細則を考える委員会への提案 >

(1) 定款・細則の方向性を決めた上で、会員からの意見を募る。

(2) NPO 法人としてどの方向性でいくのか・・・B 案 公共性・公益性、CAP 応援団 (A 案も検討のプロセスではあった) 定款・細則を考える委員会から、定款・細則の変更等を行なうにあたって、組織の方向性について運営委員会に対して意見を求められたため、検討し運営委員会から定款細則に方向性を提案したもの。

| | A CAP グループの事業連合体 | B 公共性、公益性 CAP 応援団 |
|----|------------------|-------------------------------|
| 会員 | MOU を交わしたグループ | CAP 活動を物心両面で支援しようと思ってくれる個人と団体 |

各グループに対して整理して説明することが必要。

書記：事務局

「理事会への提案」については、第 3 回理事会(11 月 20 日開催)に提案し、その議事要旨の公開をもってお知らせいたします。運営委員会で話し合った内容は、理事会への提案あるいは、理事会での決定事項を執行するための実際の作業に関する話し合いであり、最終決定ではないものが含まれています。会員みなさんに何が決定で、何が提案なのかをわかりやすくお知らせするための取り組みです。同様の観点に基づき、これまで「議事要旨」として会員みなさんに公開してきましたが、2010 年度からは「記録」と改めています。